

# 2015年3月期第1四半期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社 代表取締役社長

2014年7月31日



東証第1部:6754  
<http://www.anritsu.com>



**Anritsu** envision:ensure

## 注 記

---

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

---

# 目 次

---

## I . 2015年3月期第1四半期 業績概要

### I -1. 事業概要

### I -2. 連結決算概要

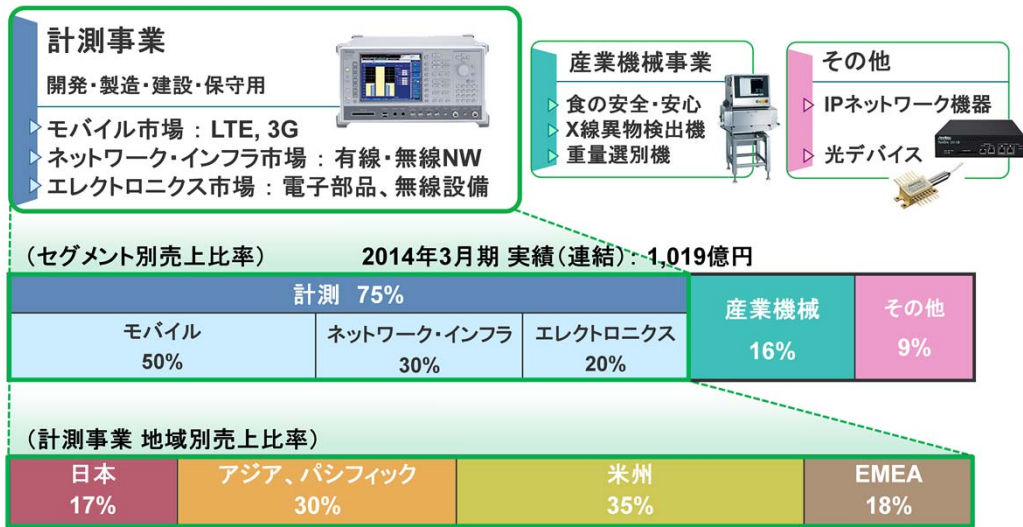
### I -3. 2015年3月期 通期業績予想(連結)

## II .モバイル・ブロードバンド・サービスの拡大と 事業機会

## III . その他

---

## I -1. 事業概要



(ノート部記載なし)

## I -2. 連結決算概要 - 事業別状況 -



計測: アジア市場が堅調

産業機械: 受注・売上共に前年と同程度

セグメント	2015年3月期第1四半期(4月-6月)の状況
計測	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モバイル: LTE-Advanced開発用需要が堅調</li> <li>・ネットワーク・インフラ: 基地局ネットワークの整備一巡</li> <li>・エレクトロニクス: 顧客の投資抑制傾向が継続</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本: 設備投資全体が低調</li> <li>・アジア: TD-LTE関連の開発投資が堅調 製造用は金額ベースで鈍化</li> <li>・米州: 基地局整備の投資は一巡</li> </ul>
産業機械	海外は堅調な一方、国内は前年並み

計測事業は、モバイル市場の開発用計測器需要が、アジアを中心に海外で堅調に推移しました。一方、スマホ製造用の計測器需要は、スマホベンダーによる生産能力増強の動きは続いているものの、計測器のパフォーマンス向上もあり、金額ベースでは鈍化傾向にあります。昨年まで北米を中心に好調に推移していたネットワーク・インフラ市場の基地局建設・保守用計測器需要は、投資に一巡感が見られました。

産業機械事業は、日本市場での設備更改需要を取り込む一方、海外展開加速のための投資や、新製品開発投資を積極的に行いました。

## I -2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位: 億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	253	238	△ 15	△6%
売上高	224	222	△ 2	△1%
営業利益	25	14	△ 11	△42%
税引前利益	27	14	△ 13	△50%
当期利益	16	8	△ 8	△50%
当期包括利益	27	7	△ 20	△74%
フリーキャッシュフロー	29	26	△ 3	△11%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

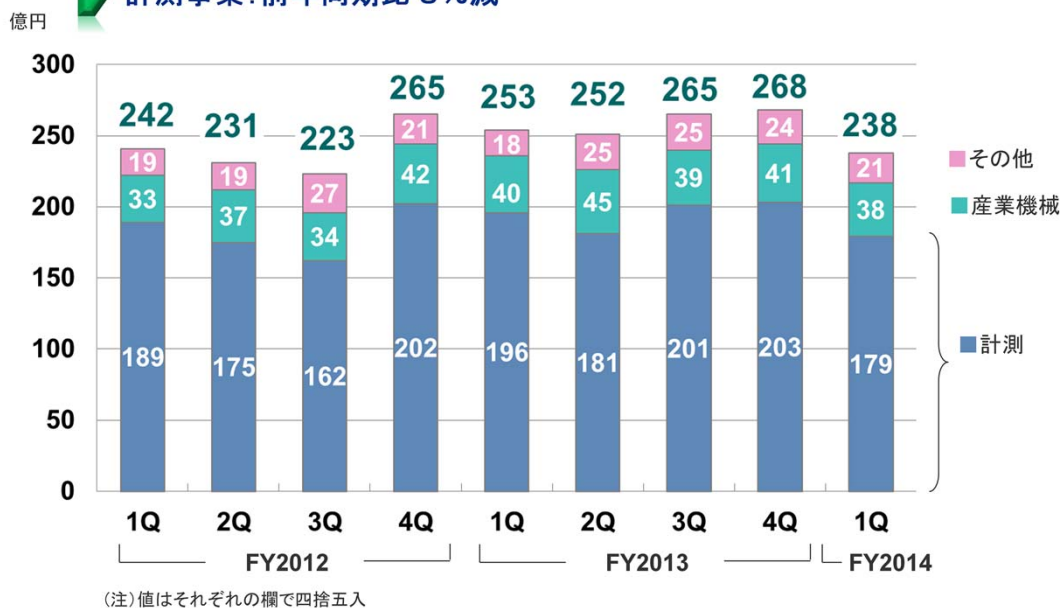
グループ全体の受注高は前年同期比6%減の238億円。売上高はほぼ前年同期比並みの222億円となりました。

営業利益は前年同期比42%減の14億円となりました。この主な要因は、計測事業・産業機械事業ともに開発投資を行ったことと、計測事業では昨年までの海外顧客への対応強化により費用が増加したことによります。

当期利益は、前年同期比50%減の8億円、包括利益は、前年同期比74%減の7億円となりました。

## I -2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

計測事業: 前年同期比 8%減



第1四半期の受注高は計測事業が前年同期比8%減の179億円、産業機械事業が前年同期比4%減の38億円、グループ全体では238億円となりました。

計測事業ではモバイル開発用需要は堅調に推移した一方、計測器のパフォーマンス向上に伴い、モバイル製造用需要は金額ベースでは鈍化傾向にあります。

なお、受注残高はグループ全体で191億円、計測事業で148億円であり、前年同期より高い水準となっています。

## I -2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

国際会計基準(IFRS)

(単位:億円)

		前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	178	176	△ 2	△1%
	営業利益	27	20	△ 7	△28%
産業機械	売上高	30	28	△ 2	△5%
	営業利益	△0	△4	△ 4	-
その他 (含:内部消去)	売上高	16	18	2	10%
	営業利益	△2	△2	0	-
合計	売上高	224	222	△ 2	△1%
	営業利益	25	14	△ 11	△42%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

計測事業の売上高は、ほぼ前年同期比並みの176億円、営業利益は同28%減の20億円で、営業利益率は11.1%となりました。

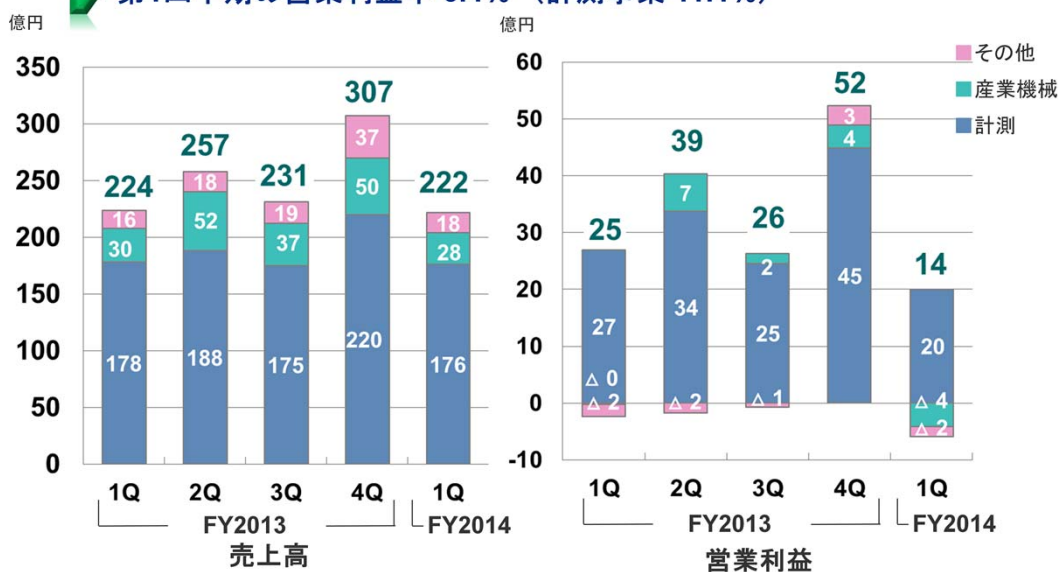
売上高はモバイル製造用と基地局建設・保守用市場で鈍化が見られたものの、モバイル開発需要が堅調だったことにより前年並みとなりました。営業利益については、研究開発費の投入が前年同期比で進捗しているため、減益となりました。

産業機械事業は、特に海外市場が堅調に推移したものの、研究開発投資と海外展開投資を進めた結果、売上高は前年度並みの28億円、営業損失は4億円となりました。



## I -2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 第1四半期の営業利益率 6.4% (計測事業 11.1%)

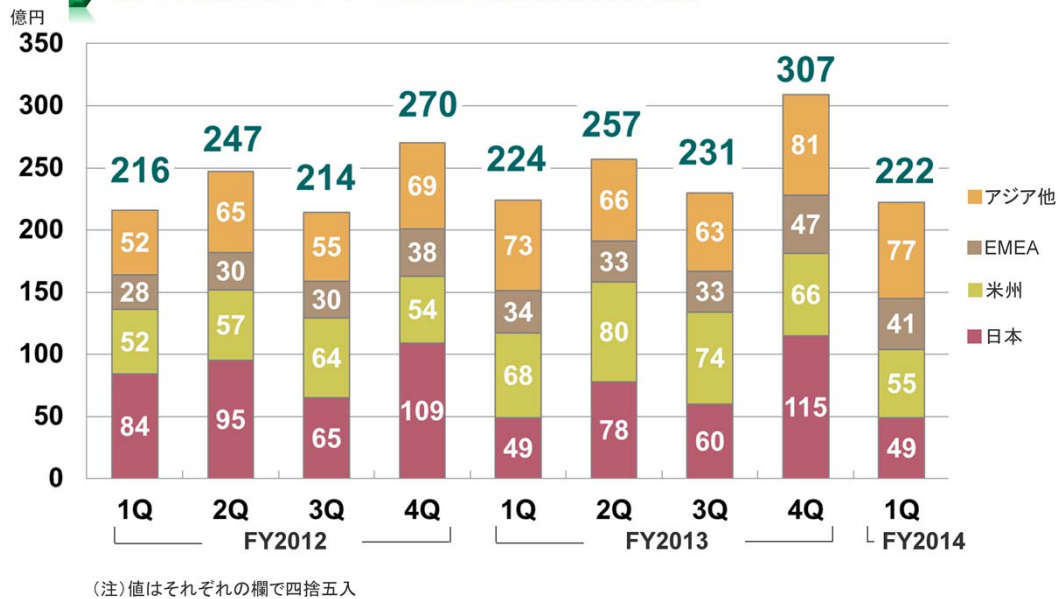


第1四半期の売上高は、連結が222億円、計測事業が176億円でした。

第1四半期の営業利益率は、連結で6.4%、計測事業が11.1%となりました。

## I -2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

▶ 前年同期比、アジア・EMEAで増加、米州が減少



地域別売上高推移としては、アジア・EMEAで堅調だったものの、米州では前年同期比で減収となりました。

米州の減収の主な要因は次の2点です。

- (1) モバイル開発需要が北米での投資にとどまらず、アジア・欧州の開発拠点でも分散投資されていること
- (2) 基地局建設・保守用の計測器需要に一巡感が見られること

日本市場は、前年同期と同水準となりました。

## I -2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -



着実にキャッシュフローを創出

FY2014 Q1

①営業CF: 34億円

②投資CF: △ 8億円

③財務CF: △ 17億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 26億円

現金同等物期末残高

441億円

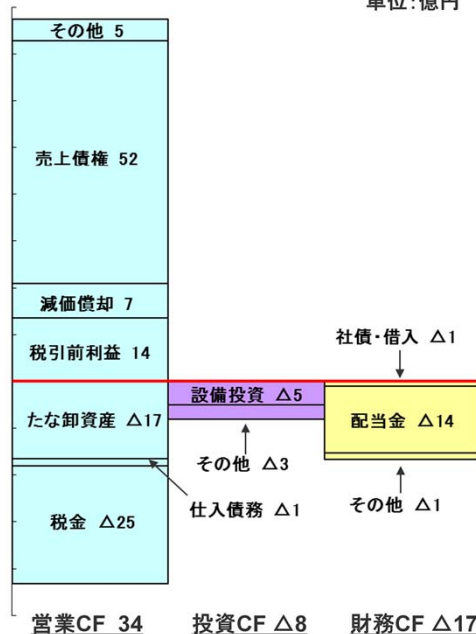
有利子負債高

188億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

内訳

単位: 億円



営業キャッシュフローは、主に運転資本の改善により、34億円の資金獲得となりました。営業キャッシュフロー・マージンは15.4%となりました。

投資キャッシュフローは8億円となりました。建設中の厚木サイトの新棟の関連費用は、今後の支出を予定しています。

その結果、フリー・キャッシュフローは26億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローの17億円の資金流出のうち、主なものは配当金の支払い14億円です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より9億円増加の441億円となりました。

### I -3. 2015年3月期 通期業績予想(連結)

4月開示より変更なし

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		2014/3期		2015/3期	
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		1,019	1,090	71	7%
営業利益		141	160	19	13%
税引前利益		142	160	18	12%
当期利益		93	110	17	18%
計測	売上高	760	815	55	7%
	営業利益	130	145	15	11%
産業機械	売上高	169	180	11	6%
	営業利益	12	13	1	8%
その他 (含：内部消去)	売上高	90	95	5	6%
	営業利益	△ 1	2	3	-

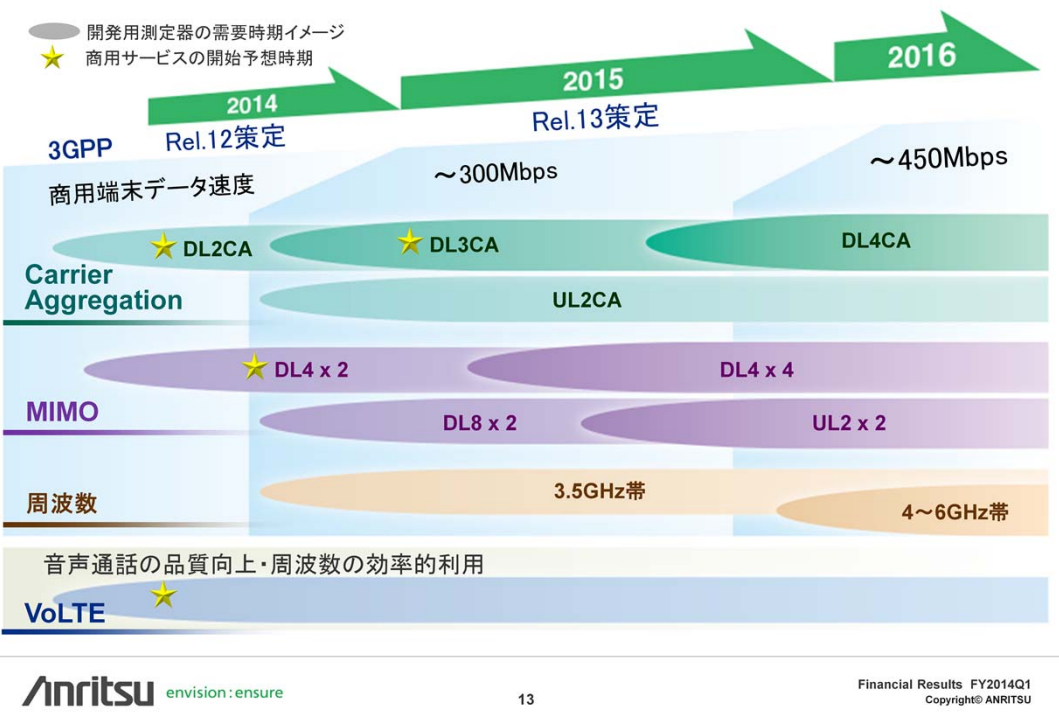
(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考)想定為替レート：1米ドル100円、1ユーロ=135円

2014年度の通期業績の見通しは、4月24日に発表した計画から変更はありません。第1四半期の進捗は年初計画の前提から大きなずれは生じておりません。引き続き、達成に向けて、組織を挙げて取組んでいく所存です。

日本国内市場での大幅な成長は期待できないものの、海外市場には大きなチャンスがあります。とりわけモバイルブロードバンドを牽引する米国市場を中心に活発に活動するキープレイヤーの投資と、中国を軸としたTD-LTE導入による需要が中心となります。

## Ⅱ. モバイル・ブロードバンド・サービスの拡大と事業機会 (1/2)



アンリツグループの業績を牽引するモバイル・ブロードバンド・サービスに関連する市場での事業機会は引き続き拡大しています。

スマートフォンやタブレットで利用されるサービスが拡大するのに伴い、モバイルネットワークにはより一層の高速化・大容量化が求められています。既に複数の国で商用サービスが開始されたLTE-Advancedサービスについても引き続き更なるサービスの進化が継続し、キャリア・アグリゲーションやMIMOなどの技術を組み合わせることにより高速化が実現されています。

また、通信サービス利用者の様々なニーズに対応するため、各プレーヤーの取り組みは今後も一層強化されていきます。

## II. モバイル・ブロードバンド・サービスの拡大と事業機会 (2/2)

### モバイル・開発分野

- キャリア・アグリゲーションの実用化 (3バンド対応チップセットの開発)
- VoLTE導入本格化によるCATビジネスの拡大
- TD-LTE端末開発の本格化
- 3.5GHz帯など、利用周波数帯域の増加
- チップセットベンダーの拡大



モバイル端末テストプラットフォーム  
ME7834L

### モバイル・製造分野

- TD-LTE端末生産の拡大
- WiFi高速化(802.11ac)、IOTによる産業・社会インフラの進展
- スマホ低価格化による、リファレンス・デザインの活用
- 多ポート化、新しい測定手法の導入による生産効率改善



ユニバーサルワイヤレステストセット  
MT8870A

### ネットワーク・インフラ市場

- 基地局のキャリア・アグリゲーション対応拡大
- モバイル・フロントホールの高速化/Small Cellの増大
- メトロネットワークへの100Gbpsの展開



ネットワークマスタープロ MT1000A

モバイルの開発分野では、チップセットベンダー・端末ベンダーを中心とした開発投資が引き続き期待できます。特にLTE-Advancedの主要技術であるキャリア・アグリゲーションは2バンド対応から3バンド対応に開発需要がシフトしていくことで、更なる投資が期待できます。それと同時に、チップセットベンダーや端末ベンダーなど、キープレーヤーも増加しており、顧客層の広がりによる事業拡大も進んでいます。

モバイル・製造分野においては、TD-LTEスマホに関連した投資が期待できると同時に、WiFiなどのSRW(ショート・レンジ・ワイヤレス)を活用したIOTの発展が計測需要を支えます。また、生産効率向上に向けた取り組みは加速しており、お客さまごとに最適なソリューションを提供することで競争力強化を図っていきます。

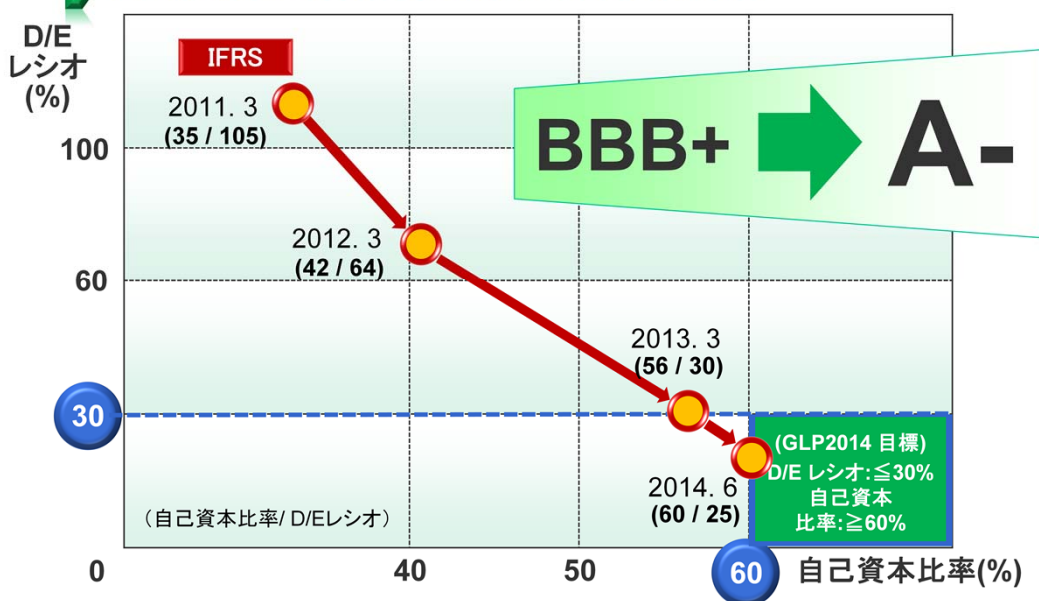
ネットワークを支える通信オペレータにおいては、高速化やサービス向上を実現するための新技術採用に向けた取り組みが進んでいます。また、それと同時に有線ネットワークの高速化に取り組む必要があり、100Gbpsネットワーク構築の本格化に向けた動きも出てきています。当社は、有線・無線の双方に対応したソリューションを強化しています。

我々は、これらの市場環境はチャンスと考えており、引き続きお客さま満

足度の向上を通じて、年度計画達成に向けて取り組んでまいります。

### Ⅲ.財務体質と企業価値の向上をめざして

▶ 収益性の向上・財務体質の改善により、格付け改善



2014年6月末の自己資本比率は60%、D/Eレシオは25%となりました。従って両指標とも中期経営計画の財務体質改善目標ゾーンに到達しました。

これに関連して、財務体質と収益基盤の安定性が評価され、R&Iより本年5月に、信用格付けがBBB+からA-に格上げされました。財務体質と収益基盤の改善課題は企業価値の向上課題と表裏一体をなします。今後とも「利益ある持続的成長」と企業価値の向上を目指して、ROE、ACE(アンリツ独自の企業価値向上KPI=税引き後営業利益-資本コスト)の改善に取り組んでまいります。





株主・投資家のみなさまのご支援とご協力をお願いして、2015年3月期第1四半期の業績報告とします。ご静聴ありがとうございました。